

秋田地方最低賃金審議会

秋田県内の最低賃金を過去最高の上げ幅となる80円引き上げ、1031円とするよう答申されたことを受けて、労働者団体は8月8日、さらなる引き上げなどを求めて異議を申し出ました。8月25日、秋田地方最低賃金審議会は、県内の最低賃金を80円引き上げ、1031円に改定するよう秋田労働局に答申しました。最低賃金は県内で初めて1000円を超える見通しとなっているものの、大幅な引き上げとなったことから一定の準備期間が必要とされ、2026年3月31日に適用されることになっています。この答申内容について、県労働組合総連合など14の労働者団体が8日、秋田労働局に異議申出書を提出しました。また全国労働組合総連合からは2026年3月31日の適用とされている改定日を早めることなどを求める署名が手渡されました。その後、県労連や全労連は県庁で会見を開き、異議を申し出た理由を公表しました。秋田県労働組合総連合・高野智子議長…「昨今の物価高騰を乗り越えるための賃金を得るには、1031円は不十分と言わざるを得ない。会計年度の最終日である3月31日という前例のない発効日。全国で一番遅い発効日となったことに對し、重大に受け止めている」全国労働組合総連合・竹下武事務局次長…「準備期間が秋田だけ長く設けられて

いる特別な事情があるのかどうか。具体性も明確でない。今回の最低賃金改定の3月末発効は、遅延の限度を超えている」今回の異議の申し出を受け、審議会は答申の内容を再度協議することにしています。

秋田県と言えば賃金ベースが低いことでいいイメージが無いだけにワースト3にはなっていないほしくはありません。■

ツキノワグマの被害

秋田県など東北地方では令和7年度は春からクマの出没が多発しているほか、ブナの大凶作も予想されていることから、秋の出没増加と人身事故リスクの高まりが懸念されます。このため、県では「秋のクマ事故防止強化期間」を設け、人身事故防止に向けて正しい知識や対策に関する情報発信・普及を集中的に行います。「いつでも・どこでも・誰でも」クマに遭遇する可能性があることを意識し、対策を心がけてください。

【期間】

令和7年9月1日（月）から令和7年10月31日（金）まで

遭遇リスクが高い状態が継続していますが、この傾向は今後も続くことが予想されます。また、今年度は小屋等への侵入、ニワトリや



冬眠前の農作物への食害、クマとの交通事故の多発など、令和5年度と類似した状況も各地で確認されています。さらに、ブナの実が極めて少ない「大凶作」も予測されており、クマの行動範囲の拡大が懸念されます。これらの状況から、今年度は令和5年度のような大量出没になるおそれがあります

季節を問わず、いつでも・どこでも・誰でもクマに会う可能性があります。基本の対策を徹底し、最高レベルの注意を払ってください。

都内でもクマの出没が確認されているのでハイキングやキノコなどの山菜狩りでも大いに注意が必要です

海老名市の話題

酒米の品質収穫前に把握

泉橋酒造（海老名市）は稲の収穫作業前に生育状況を把握できる「酒米の予測技術」の特許を出願した。県立産業技術総合研究所（産技総研、同市）と千葉大学と共同の取り組みで、無人機ドローンと特殊カメラを使い、酒米の品質を判断できるとされるタンパク質含有率を「見える化」した。同酒造会社の橋場友一社長は「収穫前に仕込みに適した酒米を短時間で選定が可能になる。今後のより良い酒造りにつなげたい」と話している。特許は今年3月、3者で出願した。同社によると、良質な酒米はタン

パク質含有率が少ない方が良くとされている。収穫前に把握できれば、事前に作成している醸造計画に反映させやすく、収穫や仕込みの順番、倉庫の保管場所も決めやすいという。

同社は「酒造りは米作りから」を掲げ、日本酒の原料となる酒米の8割を地元農家と一緒に作る。1996年に0.5ヘクタールで始めた自社栽培は現在、10ヘクタールにまで広がっている。



ドローンを飛ばす

これまでは収穫した酒米のタンパク質などの成分分析は時間や労力がかかる上、一部の水田の酒米しかできず、全体の仕込みの計画に反映できなかつた。そこで、広い水田の状況をドローンを活用し、2018年に実証実験を開始して良質な酒作りに励んでいる。■

玄関にピンクのハートがお出迎え”

10月が乳がんへの関心を高める「ピンクリボン月間」であることに合わせて実施されている取り組み。市役所で行われるのは今年で2回目。



掲出は10月31日（金）まで「今年にはピンクの反射材を使い、きれいなピンクになるよう工夫しました。啓発につながるれば」と市健康推進課の担当者は話す。■